



立教大学グローバル教養副専攻ディシプリンコース データサイエンス Data Science
グローバル人材に求められるデータ活用力を身につける

▶ いま求められるデータ活用力

データサイエンス副専攻は、各学部の専攻分野で学んだことを、グローバル化の進んだ社会における様々な場面で活かすためのスキルを養成する副専攻です。具体的には社会に存在する膨大な情報の中から、必要なデータを自在に組み合わせて分析し、新たな価値を創出するための力を身につけることを目指します。

データサイエンス副専攻では、このような力を身につけ、修了証を得ることにより、その力を社会に示すことができます。



▶ データサイエンス力が活用できる仕事

いま、多くの企業で高度なデータ分析能力を持った人材が求められています。経済産業省の推計によると、IT人材は2015年時点で17万人不足しています。さらに2030年には需要が拡大し、最大で約79万人不足する見込みです。

データサイエンス副専攻で学んだことは、企業において即戦力として求められるスキルに直結するでしょう。例えば、ある企業に眠っている膨大な「顧客データ」単独では、新商品の開発には結びつきません。

しかし、そのデータに「気象情報」や「過去の売上データ」、あるいは「SNSの書き込みデータ」を組み合わせ、分析することにより、新商品の開発や効果的なマーケティング戦略を打ち出すことができますようになります。そのためには、ITスキルや統計的分析力、一見無関係に見えるあらゆる情報間の関係を探るすどい嗅覚など、自らの専門性を活かした幅広い知識が求められます。そのような力はグローバルに展開する企業においては必須能力と考えられており、企業はそのような人材を必要としています。

▶ データサイエンス副専攻を修了するためには

社会情報教育研究センターが科目提供している全学共通科目、および、データサイエンスに関わる各学部の専門科目の単位を修得する必要があります。また、海外体験をし、所定の認定審査を受ける必要もあります。



◆ 修了要件 ◆

- 科目履修：第1系列4単位以上、
第2系列および第3系列の基礎科目（区分2-1, 3-1）4単位以上、
第2系列および第3系列の先端科目（区分2-2, 3-2）4単位以上
を満たした上で、副専攻科目16単位以上。
- 海外体験：立教大学で実施されている海外プログラム。自主企画も要件として認めることがある。

副専攻科目例（全学共通科目）

区分	科目名
1	社会調査入門 社会調査の技法
2-1	データ分析入門 データの科学 数学の世界
2-2	多変量解析入門 統計情報で社会・経済を診断する
3-1	Introduction to Statistics 1 Introduction to Statistics 2

左記にあげられているのは、全学共通科目に設置されている副専攻科目です。このほかに、各学部設置されている副専攻科目があります。詳しい情報は立教大学グローバル教養副専攻のホームページ（<https://spirit.rikkyo.ac.jp/rmp>）でご確認ください。



● 関連情報

データサイエンス副専攻と関連する資格や検定試験についての情報です。

ともにデータサイエンス副専攻を主管する社会情報教育研究センターで対応していますので、質問等がある場合は下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

● 社会調査士資格

「社会調査士」は、一般社団法人社会調査協会によって認定される資格で、インタビュー調査やアンケート調査の方法を学び、統計や世論調査などの結果を批判的に検討するなど、社会調査の現場に必要な能力を持った「社会調査の専門家」のことです。資格取得のためには、標準カリキュラムのA～Gに対応している科目を取得済みであること、学部を卒業することが必要です。

● 統計検定

「統計検定」とは、統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験です。データにもとづいて客観的に判断し、科学的に問題を解決する能力は、仕事や研究をするための21世紀型スキルとして国際社会で広く認められています。

■ News Letter 第1号 2018年7月発行

■ 編集責任者：松本 康（CSIセンター長） ■ 編集・発行：社会情報教育研究センター（CSI）
■ 編集者：山口和範（統計教育部会） 立教大学 池袋キャンパス 8号館4階

・Tel:03-3985-4459
・Email:csi-info@rikkyo.ac.jp
・<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi>

